

1850年創業 「漁民の利益につながる、よい漁具を」



アサヤ株式会社

会社案内



気仙沼本社	〒988-0853	宮城県気仙沼市松川前13-1	TEL: 0226-22-2800	FAX: 0226-22-5434
石巻支店	〒986-1111	宮城県石巻市鹿又中埠25	TEL: 0225-98-7870	FAX: 0225-75-2238
釜石支店	〒026-0002	岩手県釜石市大平町3-9-1	TEL: 0193-22-2410	FAX: 0193-22-2455
宮古支店	〒027-0096	岩手県宮古市崎鋤ヶ崎第11地割10-1	TEL: 0193-62-6234	FAX: 0193-63-3046
階上工場	〒988-0213	宮城県気仙沼市最知南最知304-7	TEL: 0226-27-3008	FAX: 0226-27-2091
越喜来工場	〒022-0101	岩手県大船渡市三陸町越喜来烏頭5-1	TEL: 0192-44-3265	FAX: 0192-44-2130

アサヤは1850年創業の漁具屋で、三陸全域を商圈としています。
代々、「漁民の利益につながる、よい漁具を」の理念を守ってきました。



「針金」の
語源を作った
廣野太兵衛
(二代目)



1971年12月2日 毎日新聞 宮城版 14面

漁民の利益につながる、よい漁具を

三陸の漁業に貢献することこそが、アサヤの仕事の本質。たとえ、他の業者が諦めたとしても、アサヤだけは最後まで諦めずに、三陸の漁業を守る。

社員が主役になれる仕事

アサヤの仕事の主役は社員。主役が貴重な人生を費やす仕事なのだから、楽しさと充実感がなくてはならない。「好き」で「得意」で「裁量」があって「評価」される仕事を作り、皆で力を合わせて頑張って、頑張った分だけ報われる会社を目指す。

三方よしの三百年企業

アサヤの創業は1850年。2050年には創業二百年、頑張れば三百年企業も夢じゃない。そのためには、社員が楽しく働き、お客様に喜ばれ、地域にも貢献する、「三方よし」が大切。地域の模範となる行動を心がけ、「信頼」という財産を遺す。

■ 漁民の利益につながる、よい漁具を

アサヤは1850年創業の漁具屋で、三陸全域を商圈としています。代々、「漁民の利益につながる、よい漁具を」の理念を守り、漁業家の役に立つ資材や機械を提供してきました。

アサヤの歴史は、三陸の漁業への貢献の歴史です。釣糸を作るための麻の買い付けから始まった商売は、時代とともに釣針、ロープ、網、カゴ、樹脂製品、機械と遷り変わってきましたが、本質は創業以来一貫して変わりません。漁業家の話を親身になって聞き、どうすれば役に立てるかを真剣に考える。様々な関係者を巻き込み、漁業家のために一所懸命に行動する。漁業家に貢献して喜んでもらえれば、仕事に張り合いが出てさらにのめり込める。三陸の漁業に貢献することこそが、アサヤの仕事の本質なのです。

漁業家を取り巻く環境がどれだけ厳しくなっても、アサヤはこの姿勢を貫き通します。たとえ、他の業者が諦めたとしても、アサヤだけは最後まで諦めずに、三陸の漁業を守ります。三陸の漁業家にとっての真のパートナー、それがアサヤの目指す姿です。

■ 社員が主役になれる仕事

アサヤにとって最も重要な資産は社員です。アサヤが商売を続けられるのは、お客様に一所懸命に貢献しようと頑張る社員がいるからです。アサヤの仕事の主役は社員なのです。

社員が主役であるならば、社員が仕事を通じて最も輝かなくてはなりません。仕事は人生の大半を費やす活動です。ただ単に自分の時間を切り売りして給与と交換する、そんな食い扶持を稼ぐだけの寂しい仕事では、貴重な人生を費やすだけの価値がありません。仕事をする事自体が楽しくて、仕事をする事で人生が充実する。アサヤはそんな仕事を提供できる会社を目指します。

では、楽しさと充実感のある仕事には何が必要でしょうか。

第一に、自分が取り組む仕事を「好き」であることです。仕事が好きであれば、仕事をする事自体が楽しいし、創意工夫が働くので良い結果が出るし、一所懸命に学ぶので成長します。

第二に、仕事で自分の「得意」なことが活かせることです。得意なことが活かされれば、人より苦勞せずに結果が出せるし、お客様に喜んでもらえて嬉しいし、仕事をさらに好きになります。

第三に、自分で考えて行動できる「裁量」があることです。言われた通りに仕事をするだけでは楽しさも充実感ありません。どうすればもっと喜んでもらえるか、どうすればもっと楽になるか、常に考えながら新しい工夫を積み重ねることが大切です。

第四に、自分の仕事が「評価」されることです。誰にも喜んでもらえない仕事には楽しさも充実感ありません。相手の期待をきちんと知り、期待を満たせるように改善を積み重ね、心から相手に喜ばれる仕事をするのが大切です。

そんな楽しさと充実感のある仕事を通じて、アサヤはより多くのお客様に価値を届け、より多くの対価を受け取り、社員の生活をより豊かにすることを目指します。会社の規模を大きくしたり、多くの利益を残したりするよりも、皆で力を合わせて頑張って、頑張った分だけ報われる会社でありたいのです。会社一丸となって、夢と希望を共有して、全力で邁進する。アサヤはそんな活力のある会社を目指します。

■ 三方よしの三百年企業

アサヤは2015年に創業165年を迎えました。今後もお客様に価値を届け続けることが出来たのなら、2050年には創業200年を迎えることができます。そして、次の世代、その次の世代とバトンを引き継いでいくことが出来れば、2150年には創業300年を迎えることができるでしょう。

そのためには、お客様と社員に加えて、もう一つ大事にすべき存在があります。それは地域です。近江商人の「三方よし」という言葉の通り、「売り手よし、買い手よし、世間よし」のバランスを取ることで、会社は永く継続していくことができます。

では、アサヤが地域に対してできる貢献とは何でしょうか。最も大切なのは社員の日々の行動です。近所の人達に気持ちのよい挨拶をする。草刈りや雪かきなどを進んで行う。地域の行事のお手伝いをする。子ども達やお年寄りの面倒を見る。地域の模範となるような行動が一番の地域貢献なのです。

その積み重ねの結果として、アサヤの人はとても立派だ、アサヤの人に頼めば間違いない、アサヤの言うことなら信頼できる、自分の子供もアサヤで働かせたい、アサヤの活動を応援したい、といった信頼を獲得することは、次の世代に引き継ぐことができる無形の財産となるでしょう。

社員が楽しく働き、お客様に喜ばれ、地域にも貢献する。アサヤはそんな「三方よし」の企業であり続けることを目指します。

基本戦略：顧客への密着

お客様と誰よりも親密な関係を築き、常に相談を持ちかけられるポジションを確立する。

営業戦略：資源・収益・労働力の課題解決

三陸の漁業家が抱える資源・収益・労働力の課題を解決するために全力を尽くす。

- ✓ 「面倒事」 非効率なことを厭わずに引き受ける
- ✓ 「機械化」 機械の導入から保守までを担う
- ✓ 「漁法革新」 新しい方法を開発・提案する
- ✓ 「漁業啓発」 漁業に興味を持つ人を増やす

管理戦略：「社員が主役」の人事制度

育成面談、目標管理など、社員が主役として楽しく充実して働くための環境作りを行う。

また、社員の生活向上を実現するため、報奨制度の検討や給与体系の見直しを行う。

投資戦略：ヒト・モノ・カネ・情報・ブランド

三百年企業を目指して、「ヒト・モノ・カネ・情報・ブランド」という経営資源を磨き続ける。

商品

繊維（ロープ・網・糸）



薬品（防汚剤・塗料）



機械（漁船用・養殖用）



施設（フロート・アンカー・土俵）



備品（カゴ・金物・プラスチック）



仕入



拠点



宮古支店
釜石支店
越喜来工場
気仙沼本社
階上工場
石巻支店

販売



顧客

漁船漁業



養殖漁業



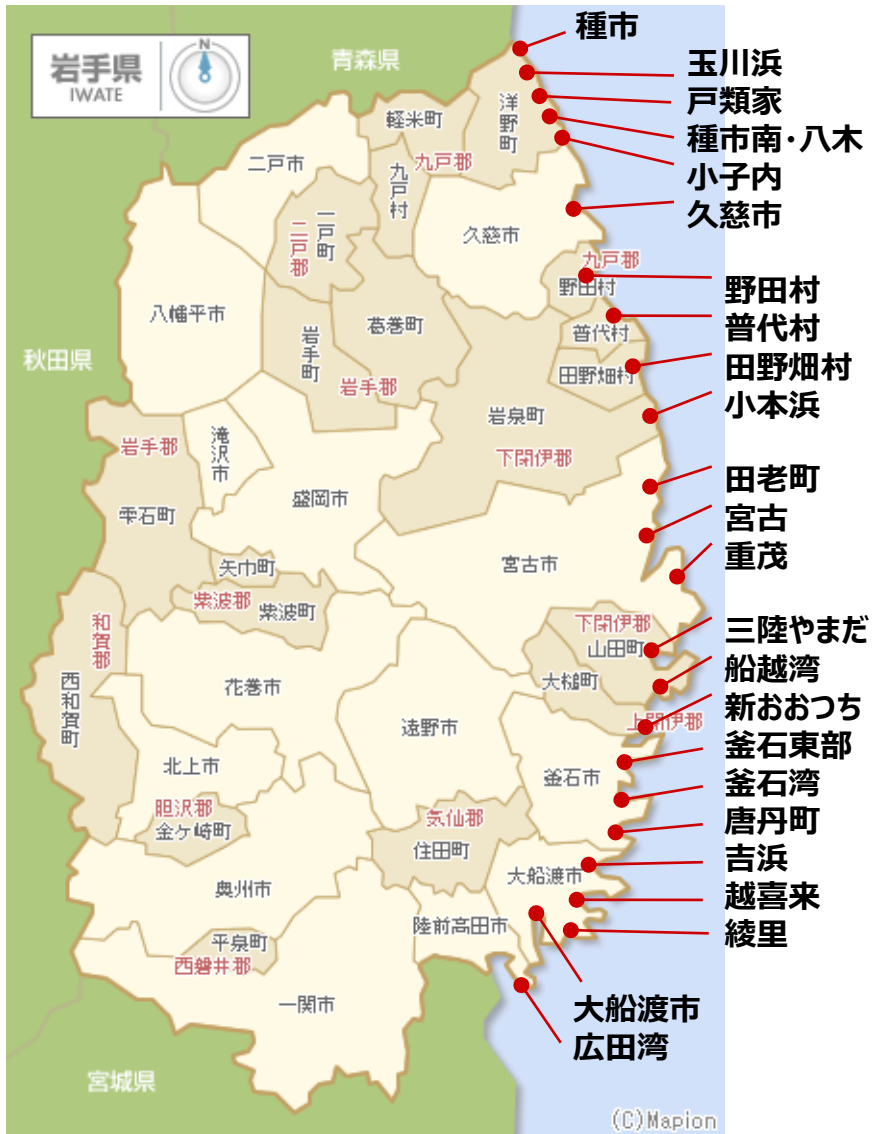
定置漁業



内製作業

- 漁網の仕立て
- 油圧ホースの製作
- 救命筏の整備
- フロートの製造
- 水中ロボットでの漁場調査
- 漁撈機械の修理・整備
- 漁網の防汚加工・染網
- 船舶の塗装

主要商圈 (岩手県・宮城県)



漁船漁業

漁船を主体とした漁業を営んでいる顧客。気仙沼の遠洋・近海マグロ延縄が大半を占めており、あとはメカジキ突きん棒、イサダ船びき網、サケ縄、サケ刺し網などが含まれる。



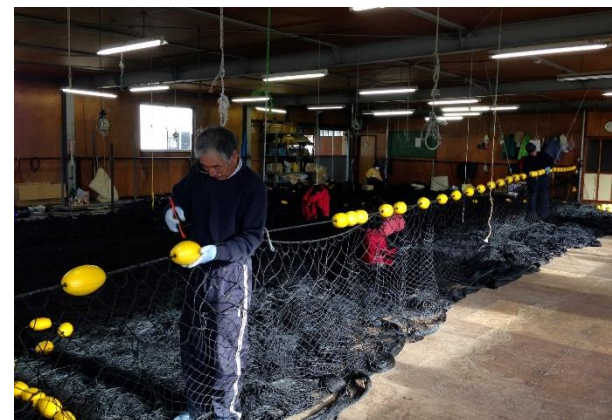
養殖漁業

様々な海面養殖漁業を営んでいる顧客。主に、三陸全域で行われているホタテ・カキ・ワカメ、岩手南部～宮城のホヤ、宮古のコンブ、宮城北部のギンザケなどが含まれる。



定置漁業

定置網を使った漁業を営んでいる顧客。定置網には都道府県知事の免許が必要で、5年毎に免許の更新がある。岩手・宮城では漁協単位で営んでいることが多い。



繊維 (ロープ・網・糸)



薬品 (防汚剤・塗料)



機械 (漁船用・養殖用)



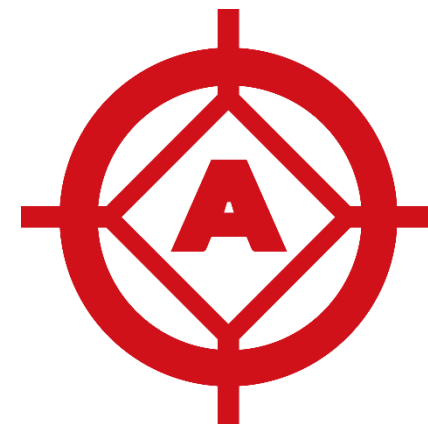
施設 (フロート・アンカー・土俵)



備品 (カゴ、金物、プラスチック)



社名	アサヤ株式会社	
所在地	〒988-0853 宮城県気仙沼市松川前13-1 TEL：0226-22-2800 / FAX：0226-22-5434	
代表者	代表取締役社長 廣野 浩	
資本金	50,000,000円	
従業員数	76名（常勤役員を含む、2015年5月現在）	
創業	1850年（嘉永3年）	
法人設立	1948年5月1日 「株式会社麻屋商店」を設立 1988年6月1日 「アサヤ株式会社」に社名変更	
事業内容	- 漁具・船具・漁業資材・漁撈機械の販売 - 水中ロボットでの漁場調査 - 漁撈機械の修理・整備（漁撈機械課、鉄工部） - 救命筏の整備（漁撈機械課） - 油圧ホースの製作（漁撈機械課） - 漁網の防汚加工・染網（染網部） - 船舶の塗装（塗装部） - フロートの製造（化成部） - 漁網の仕立て（子会社：麻屋漁網株式会社）	



アサヤのロゴマークは、1988年に社名変更した際に、5代目・廣野甚吉がデザインしました。

アサヤの英字表記の「A」、主要製品であるロープの円形、同じく主要製品である網の菱形をモチーフとしています。

アサヤ株式会社

代表取締役社長

営業部門

気仙沼本社

営業部

石巻支店

釜石支店

宮古支店

製造部門

階上工場

漁撈機械課

鉄工部

染網部

塗装部

気仙沼本社

化成部

総務部門

気仙沼本社

総務部

経理部

麻屋漁網株式会社

越喜来工場

ア
サ
ヤ

(氣仙沼市)

江戸末期の一八五〇年を付けたら、麻の網を使うに、初代の広野太兵衛が気仙沼市八日町の旧本社で麻の商売を始めた「広野屋」のため「麻屋」と呼ばれるようになった。当時は麻糸に針



広野 浩さん

大正初期には釣りが麻から綿、漁網も綿糸網に変わった。手こぎ船だけでなく、動力船が導入されたとい」と話していた。



江戸後期から150年以上も続く漁具船具の老舗「アサヤ」

社員主役に 漁具を商う

に、同市八日町から現在の
魚市場前に本社を移転。本
社のほか石巻、釜石、宮古
に支店、盛岡に営業所があ
る。

六十三人の社員がモット

め、船員も扱ふようになった。現在は網、ロープ、漁具、船具、養殖資材などを販売している。

一九八六年六月に五代目の広野甚吾社長（故人）の「麻屋商店」から現在の「アサヤ」に社名変更し「アサヤ」の「A」と網とロープをイメージしたマークをつけた。現在の広野浩社長（故人）が、六代目社長に就任した後の一九九十年十月

め、船員も扱うようになった。現在は漁網、ロープ、漁具、船具、養殖資材などを販売している。

一九八八年六月に五代目
広野壘吉社長（故人）が
麻屋商店」から現在の
「アサヤ」に社名変更し
「アサヤ」の「A」と網と
「P」をイメージしたマー
クをつくった。現在の広野
社長^{西も}が、六代目社長
就任した後の九九年十月

2001年2月23日 気仙沼かほく 4面

現社長の廣野浩 (六代目)

気仙沼出身の陸軍中將・廣野太吉も アサヤに縁のある人物

屋号ものがたり



投稿

④「陸軍」 平野野將
陸軍中將從三位勲一等功三級平野大馬
戰時、氣仙沼出陣の時、軍人としては最高に
あり、町民憧れのひとでもあった。

明治十年一月四日、氣仙沼の沼田町の三番番・沼田字金富の前番番・雪谷麻蔵、父平野長兵衛、二兄長兵衛、母と、子孫小山重、の四男として生まれた。

平野家の祖は藤原氏郷の流れ汲で、紀州田原郷の出身である。

元禄元年（一六八八）年、平野長兵衛が、移り住み、丸にすがり、い針ばきを家紋とした。

約に改称した。この「鐵甲艦」は、古くは薩長に攻め寄せたが、角で作つていたが、戦艦時代のものに改称する。そのころに、十九世紀には、約鐵甲艦を生かすことも出来た。鉄材を鑄て打つた。これを鉄甲艦と呼び、船材を鉄板に、木を鉄材に切り出し、つくり、所付をせしめし、

商店にイキスから鉄板を輸入してを造り、「厭屋」では船や馬車、約鐵板に仕入れ、漁師には釣網に鉄線網を今よりより大に用ゐた。

これが三藩軍一帯に広がり、「厭屋」が繁盛した。二代目の兵衛が、この鉄線

校、仙臺盛岡、仙居、陸中中央幼学堂、を経て、明治三十一(一九一八)年、陸軍士官学校卒業、トウエツを準備、

翌三十九年、陸軍少佐(一九一九)年、四十四(一九一九)年、陸軍砲士少佐

「欧州で最も進んでいるのは独逸（ドイツ）でツェッペリン飛行船（昭和四年八月気仙沼上空を飛行）ばかりでなく、すべての持

鼎今浦物語

98

翌年、砲兵大尉、野砲兵第七隊中隊長、大正七年砲兵少佐、同十五年には中佐に昇格している。広野中佐は、気仙沼の大火があった翌年の昭和五年に半年間の欧州視察をするところとなり、出発前の二月一日に妻も乗せて帰郷した。正田は正田屋で

[illegible]

間には必ず津輕要塞の司令官として任務をこなす。一月十日には天皇陛下が北海道へお出でになる特別列車に大演習を観覧に来られ、小梅が車載「ばけに乗猪」面盾に乘猪に挨拶する。

津輕要塞司令官の女中野少将は、天皇陛下に御要塞の沿革並びに戦備概況を説明する重要な大役を果たしてしまっ

てしまっ

(左起) 小梅、小梅



広野太吉

2008年9月18日 三陸新報 5面



2015年9月16日 読売新聞 宮城版 35面



2015年10月10日 読売新聞 夕刊 12面

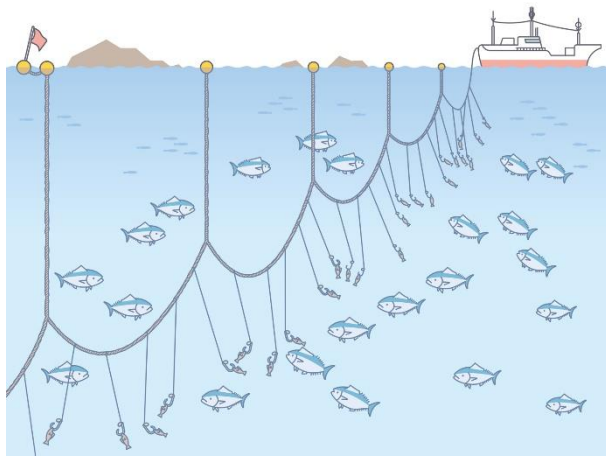
漁業に興味を持ってくれる人を増やすために
観光客や地元民向けにイベントを開催



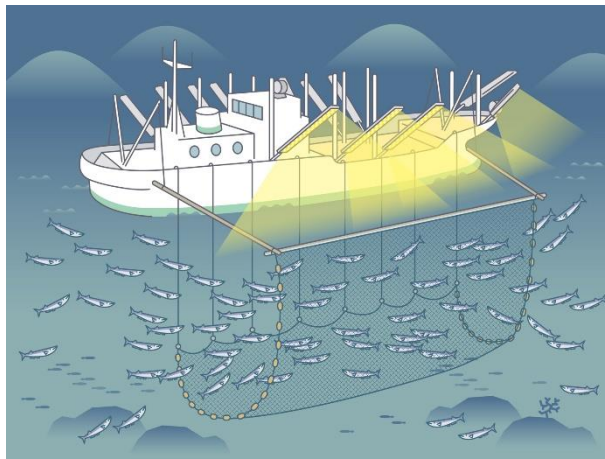
2015年9月26日 NHKニュース

漁法紹介

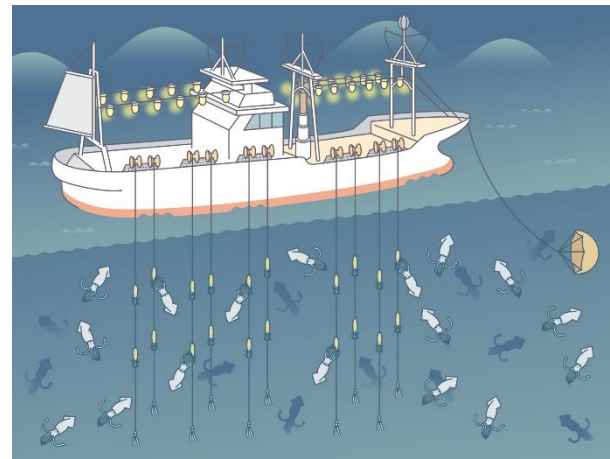
【延縄】 150～200kmの幹縄に、2～3千本の枝縄を付けて、マグロ・メカジキ等を獲る。



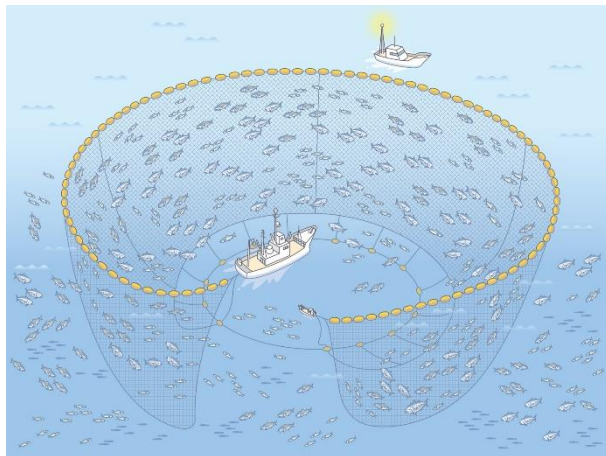
【サンマ棒受網】 網を沈めておき、集魚灯でサンマを集めた後、網を引き上げて獲る。



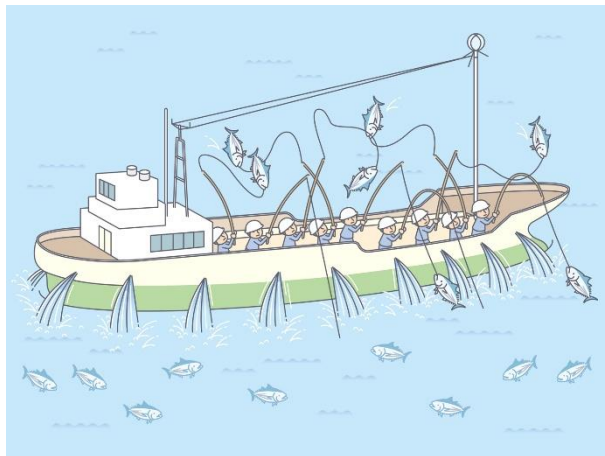
【イカ釣り】 集魚灯でイカをおびき寄せ、自動イカ釣り機でスルメイカ・ヤリイカなどを獲る。



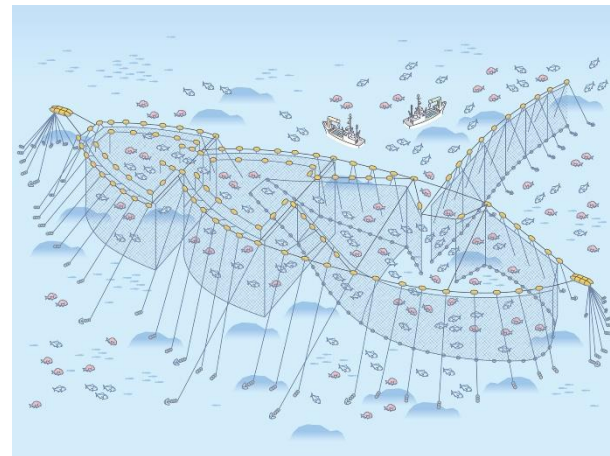
【旋網】 大型の網を漁船で円形に広げ、マグロ・カツオ・サバ等の魚群を包み込んで獲る。



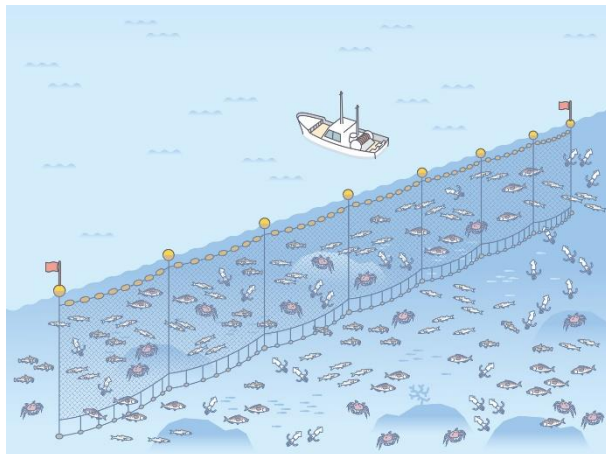
【一本釣り】 カツオ等の魚群を見つけ出し、イワシ等の餌でおびき寄せて釣る。



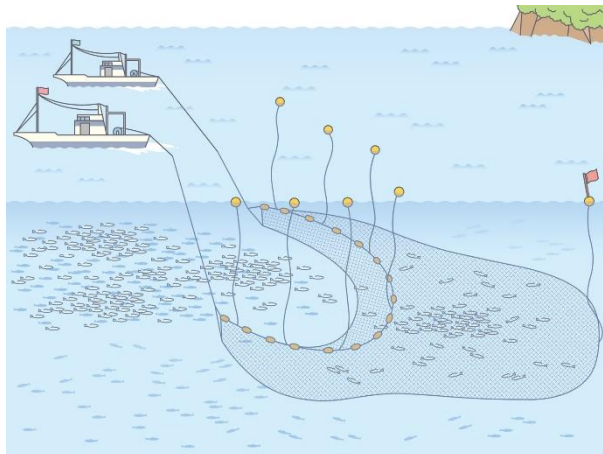
【定置網】 垣網で魚を遮り、昇網で誘導し、箱網で捕まえる。サケ・イワシ・サバ等を獲る。



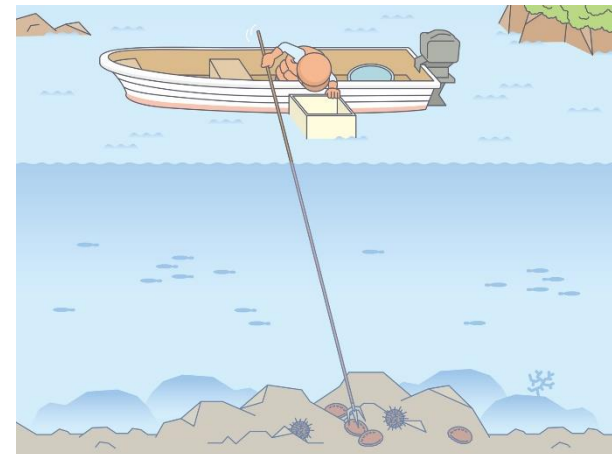
【刺し網】 魚の通り道に網を仕掛け、サケ・タラ・カレイ等を絡ませて獲る。



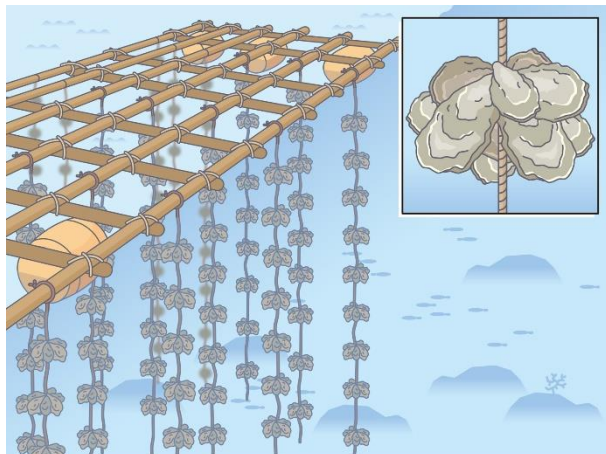
【船曳網】 袋状になった網を1～2艘の漁船で引いて、イサダ等を獲る。



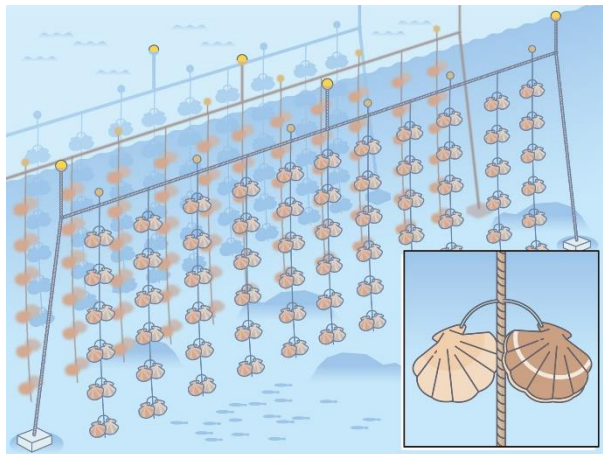
【採貝・採藻】 カマ・モリ等の道具を使って、船上から人の手でアワビ・ウニ・海藻類を採る。



【カキ・ホヤ養殖】 カキ・ホヤの稚貝が付いた種をロープに挟み、筏から吊るして育てる。



【ホタテ養殖】 ロープにアゲピンでホタテを括り、延縄から吊るして育てる。筏の場合もある。



【ワカメ・コンブ養殖】 胞子を着けた種糸をロープに取り付け、筏・延縄に吊るして育てる。

